98 胆汁、胸水、腹水中のＣＥＡ及びＴＰＡ値の意義

中駄邦博，塚本江利子，藤森研司，勝賀瀬貴，
伊藤和夫，古舘正従，（北大，核）
表英彦（同，放部）

近年、血清以外の体液における腫瘍マーカーの意義についての検討が進みつつあるが、当施設では胆汁、胸水、腹水中のCarcinoembryonicantigen (CEA) 及びTissue Polypeptide Antigen(TPA) の測定を行ない、その臨床的意義について検討した。初めに基礎的検討として希釈試験、回収率試験、Inter-assay 、Intra-assay を行なったが、CEA はこれらの基礎的検討において良好な結果を示したが、TPA はCEA と比較するとやや劣る結果となった。臨床的意義に関しては、これら体液中のマーカー値の良性、悪性疾患の鑑別にあたっての有用性、臨床経過とマーカー値の変動との比較同一症例でのマーカーの血清値と体液値との比較検討をCEA 、TPA 単独、及び両者のcombined assay について行なった。

99 健常人におけるルイス式血液型と血清ＣＡ１９－９濃度

阪原晴海、遠藤啓吾、中島言子、中島鉄夫、
小泉　満、太田仁八、鳥塚莞爾（京大　放核）

CA19-9は膵臓癌などの診療に臨床的に極めて有用であるが、最近CA19-9はルイス（Le）式血液型物質と密接な関係があることが明らかになった。そこでまず健常者において赤血球ルイス式血液型と血清CA19-9濃度との関係を検討したところ、血清CA19-9濃度はルイス式血液型の表現型により、明らかな差異が認められた。

Le(a+b-)型のヒト（N=10）では血清CA19-9が40.8±19.3 U/ml と最も高く、次いでLe(a-b+)型(N=20)では11.4± 3.0 U/ml 、Le(a-b-)型のヒト(N=10)では血清中にCA19-9はほとんど検出されなかった。しかし同時に測定したCA 125、CEA はルイス式表現型の間に有意差が見られなかった。生まれつきルイス遺伝子をもたない表現型Le(a-b-)のヒトではルイス型物質の産生が見られず、血清中にCA19-9が検出されなかったものと考えられる。

さらに一部のLe(a-b-)型血清、IgG 分画を用いると添加したCA19-9の回収率が悪い症例が認められた。血中にCA19-9に対する抗体が存在するためCA19-9が正確に測定されなかったものと思われ、今後さらにルイス型抗原とCA19-9の関係の検討が必要である。

---

100 各種肝疾患における肝組織のガングリオシドパターンの比較検討およびCa 19-9の存在様式の検討

丹野宗彦，永島淳一，西野英男，山片　淳，
千葉一夫，山田英夫（都養育院核放部）

ガングリオシドは細胞膜に局在し，細胞の発癌過程と密接な関係がある。他方Ca 19-9は膵癌などの腫瘍マーカーとして有用である。しかし他の消化器系悪性腫瘍患者でも血中での上昇傾向がみられることが報告されている。我々は，肝癌４例，肝硬変５例，正常肝２例，肝癌を伴った肝硬変症４例につき肝組織よりガングリオシドを抽出し，二次元簿層クロマト法を用いてガングリオシドパターンにつき比較検討した。また抽出したガングリオシドと ^{125}I標識抗Ca 19-9抗体とのオートラジオグラフィーを作製した。

正常肝のガングリオシドパターンではGM3が主要成分であり，微量成分としてGM2, GD1a, GD3, GT1b, GQおよびいくつかの未同定ガングリオシドがみとめられた。肝癌ではGH3の減少，GD3, GD1a, GD1bの増加傾向の他に肝癌に共通してGM2と未同定ガングリオシドの顕著な増加をみた。

^{125}I標識抗Ca 19-9抗体によるオートラジオグラフィーでは，これらの未同定ガングリオシドのいくつかと反応がみられた。しかし，肝癌組織では，Ca 19-9抗体と結合しないガングリオシドが未だ存在することが確認された。

101 膵疾患とその他の消化器悪性疾患における血中CA19-9測定の有用性について

笹沢輝昭（結研ＲＩ科）、尾形正方（同消化器外科）
谷忠伸（同消化器外科）、加藤行雄（同消化器内科）

膵疾患は各種検査法が進歩した現在でも診断の困難な疾患である。その原因の一つとして臨床症状が他の消化器系疾患と類似していることや簡便で確実な検査法がないことなどが上げられてきた。最近、新しい消化器癌関連抗原としてＣＡ１９－９が見い出され、特に膵癌の腫瘍マーカとして有用視されている。

今回我々は、当院における消化器疾患120例について血中ＣＡ１９－９ を測定し、種々の画像診断法と合せ、従来の血中アミラーゼ、血中ＣＥＡ、血中エラスターゼ１及び尿中アミラーゼによる診断法との比較検討を行った。消化器疾患120例の他にコントロールとして健常者20例について検討した結果健常者の血中CA19-9値は5.5U/mℓ以下から21.5U/mℓの範囲に分布しその平均値±標準偏差値は8.7±6.2U/mℓであった。30U/mℓ以上を陽性とした場合、消化器悪性疾患例に高値を示す傾向が強く特に膵癌において顕著であった。血中ＣＡ１９－９の測定は従来の検査法と比較し膵疾患及びその他の消化器悪性疾患の場合に陽性率が高く、その診断に有用であると考えられた。

Presented by Medical*Online